

芭蕉元祿事業 奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民俳句ポスト

平成二十七年八月度 入選句 (投稿総数千六百六十五句・小中学投句数九百三十四句)

特選

選者 高木 佐知子

夏の山夜空にうかぶ 大三角 大垣市 吉見 真幸(小四)

毎日見ている万緑の山が、夜の空に大きな三角形をつくつてうかんでいるダイナミックな光景に心がとまったのでしよう。昼間の入道雲に青い空、もちろん猛暑の一日を過ごした後の静かな夏の夜を想像します。その中で迫り来る夏の山がどつしりと大地に立つ姿を「大三角」と表現したところや、「うかぶ」という平仮名でおだやかな感じを表しているところがすてきです。

大垣城 花火が見える 特等 席 羽島郡笠松町青山 ともや(小六)

大垣城の天守閣にのぼつて空を見渡したとき、遠くの空に上がる花火が見えたのでしよう。大輪の花火のほかにさまざまな仕掛け花火が見えた満足感が、「特等席」という言葉から伝わってきます。夏は、やはり花火を見たいですね。花火を見ることのできた喜びを中七にこめているところから、歓声や笑顔までもが伝わってきます。

雨のあと 壁よじ登るかたつむり 美濃加茂市 佐光 涼夏(中二)

雨の降る日が少なかった今年、かたつむりたちも雨を待つていたことではよう。雨にぬれた枝葉から土の上を歩むかたつむりが雨に力をもらつて壁をよじ登る姿に目をとめた作者は、しばらくの間かたつむりと共に時を過ごしたことを思います。勉強や部活動の日々の中でさらに壁をよじ登ろうとする自分をそこに見たでしよう。一学期も頑張つて！

秀逸

夕焼けが私を一人つくり出す 大垣市 藤墳 紅羽(小六)

マウンドで投げ続ける炎天下 大垣市 川瀬 悠力(中二)

黒の画紙ほたるが描く杭瀬川 大垣市 小崎 文太(中二)

紫陽花をのぞいて見たら蝸牛 大垣市 川地 愛菜(中二)

プチトマト真つ赤な顔でぼくをよぶ 大垣市 野原 丈生(小五)

かけ声で命中したよすいかわり 大垣市 桑原 啓希(小五)

あめんぼがにんじやのように泳いでる 大垣市 近江 恋寧(小六)

なつこだち友といっしよに詩をつくる 大垣市 松岡 健斗(小六)

甲虫 一番決める 甲子園 美濃加茂市 高井 檀(中二)

うんていの下からゆれるうろこ雲 大垣市 平田 ひなの(小四)

入選

芭蕉像せみの響をなつかしむ 大垣市 高井 淳矢(中)

うち水やちようやハチたちいこいの場 大垣市 渡辺 淳や(十二才)

ぐみかんだウルトラマンになったなつ 大垣市 かしろ こうた(六才)

夏の星空 一面に広がって 大垣市 栗野 奏音(小六)

たなばたでねがいをこめてかなうかな 大垣市 名和 桃加(小二)

次こそはつかまえるセミ待ってるよ 静岡県伊豆の国市 山崎 百(三才)

かぶとむしすいかのかわでひとやすみ 大垣市 杉野 せな(小二)

かっぱ着て五月雨はしる通学路 大垣市 黒見 双葉(中)

メロンパン手汗びっしょり塩の味 大垣市 間 龍之介(中)

太陽の日を浴びおきる朝顔と 大垣市 上垣 采椰(中)

入選

負けてないセミよりわが家わらい声 大垣市 多賀 遥(小五)

夏おちば水門川をきょうそうし 大垣市 伊藤 優(小六)

つくりたき夏空うつすスクリーン 大垣市 松原 玉季(小六)

梅雨の雨つむじに一滴雨落ちる 大垣市 金城 光咲(小六)

はすの葉をアニメの真似して傘さして 美濃加茂市 羽田 彩華(中)

校舎からはねかえりくるせみしぐれ 美濃加茂市 美濃輪 万心(中)

久しぶり会話が続く夏祭り 美濃加茂市 立川 真央(中)

花火咲き君の名前をつぶやいた 美濃加茂市 後藤 佳乃(中)

梅雨の木々枝と枝とがあく手かな 大垣市 葛山 恵(中)

にぎり川葉桜うつるうつすらと 大垣市 宮川 怜夏(小六)

選者吟

陽をあびて我一番と茄子太る

佐知子